

# よし藤・子ども浮世絵に見る

## 児童観

中村 光夫

### 一、よし藤・子ども浮世絵とは

ここに紹介しました絵は「国麿」という画家が描いた『しん板男一代記』（図①）という絵の一部です。明治十二年に発行された絵ですが、その頃の男子の一生を十五の場面で描いているのですが、子どもの時代を表す場面で楽しそうに遊ぶ子どもたちの中に、ひとり寝転んで絵を見ている子どもがいます。この「えあそび」と題する絵の中で男の子が手に持っているものは、その頃、「絵草紙（えぞうし）」と呼ばれて江戸（東京）の町中の子どもたちの間ではやった子どものための一枚絵なので



▲図① 『しん板男一代記』

す。今の子どもたちがファミコンやビックリマンシールに夢中になっているように、江戸の町の子どもたちもこの絵草紙に熱中していたのです。

こんな子どもたちのようすは中勘助の『銀の匙』（岩波文庫版四十八ページ）や楠木清方の『こしかたの記』（三十二ページ）などに、自らの子ども時代の思い出として生き生きと書き表されていますが、（身近なお年寄りの中にもいらっしゃるかもしれませんが）、江戸の終わりごろから明治の末までの東京の子どもたちの大切な娯楽のひとつだったようです。

これらの「絵草紙」（人によっては、「手遊絵」とか「おもちゃ絵」とか呼んでいたようですが）を描いたのは、当時、民衆の中に流行した「浮世絵」といわれた多色刷り木版画の画工たちでした。そして、それらの画家の中にひとときわ人気の高い画家がいました。それが「よし藤」でした。

この「よし藤」という画家については、そのころの画家の地位は大変低かったのでしょうか、記録には残らな

いことが多いようで（日本を代表する浮世絵師喜多川歌麿でさえ出身地が不明なのです）、当時の浮世絵師たちの人名辞典である『浮世絵類考』という本の中の記述しか資料は無いのです。それによると、文政十一年（一八二八年）に生まれ、名前（俗称）を西村藤太郎といい、歌川国芳の門人として一鵬斎芳藤という号（ペンネーム）を持ち、本郷春木町に住み後に浅草北三筋町に移り、明治二〇年（一八八七年）に没したということです。これ以外にはエピソードが少し記録に残されているに過ぎません。やや長い文章ですが、よし藤の人となりを理解する上で参考になると思いますので紹介します。

かつて芳藤の絵を出版して居た馬喰町三丁目、樋口絵草紙店主の談に依ると、或年同店で三枚続きの組上燈籠の下絵を依頼したが、数日を経るも下絵を届けて来ない。同人の氣質を知っている主人はそのままにして待つて居たが、余り長くなるので催促をした。すると二・三日経つて芳藤が自身で下絵を持つて来た。主人は数日費やして描き上げ

たのであるから、直に彫刻師へ廻せると思つて居ると、芳藤は一旦渡した絵を披いて居たが、未だ氣に入らぬ箇所があるから訂正して二・三日の内に届けると言つた。其折主人が

「先生こんな絵は左様丁寧の事は要すまい」

と言ふと芳藤は頭を振つて

「左様ではありません。私は死んでも、絵は後に遺るものですから、自分の氣に入つたものでなければ、板にはかけられません。」

と、話されたと樋口氏より聴いた事があつた。此言葉によるも芳藤の抱負を知る事が出来よう。

芳藤は手遊絵の顧客が児童を中心として居る事に留意して、取材に苦心した事は勿論であるが、生来凝性の彼は微細な事でも（児童と同様の氣分に）徹底するまで研究をせねば止まなかつた。それ故随分奇行もあつた様である。

或年の冬、朝起ると直に寢衣のまま房楊子をくわへて、洗湯に出懸たが正午近くになつても戻らぬので、家人は心配して居ると空腹になつたといつて帰つて来た。家人が何

方へ行かれたと、尋ねると、近所の知人に急用を憶ひ出したので立寄つて来たと言ふたが、其実彼は湯屋の近所まで行くと獅子舞が賑かにはやしたてゝ居たので児童と伴に其後に付いて拍子を取りながら歩いて居たが、朝湯に出たのに氣がついた彼は慌てゝ入浴を済ませて歸つたのである事が後に判つた。此外物売の後をついて歩いて呼声の研究をする為に肝心の用事を忘れたり、祭礼に神樂屋台の前へ立つて身振手振をして傍の人に笑はれた事などは数回あつた相だ。

（『浮世絵』五号 大正四年十月号より）

この外に、「いせ辰」という千代紙屋のご主人である広瀬辰五郎さんの文（『おもちゃ絵』徳間書店刊）・著名な絵本研究家である瀬田貞二さんの文（『落穂ひろい』福音館刊）・米国人として日本の子どもの文化を研究されている法政大学の先生アン・ヘリングさんの文（『季刊銀花二一』文化出版局刊）などでもよし藤の仕事の内容や意義を知ることができますが、いずれもよし藤の業績を高く評価しているのです。

なみなきよおくあそび



梅堂豊氏所蔵

◀ 図② 『みなさんよくおあそびよ』

## 二、よし藤作品の意義

わたしもこれまで少しばかりのよし藤作品を知る機会をもつて来ましたが、とても楽しく、また大変に魅力があり大好きです。そこで、よし藤作品がもつ意義・特色・魅力などを作品を見ながら探ってみたいと思います。

### (一) 童心性

よし藤の作品の特徴の第一にあげられるのは、そのあふれるばかりの童心性にあると思います。つまり、子どもたちのありのままの姿をととても大切にしてくれているのです。

ここにあるのは『みなさんよくおあそびよ』(図②)と題した作品で、万延一年(一八六〇年)に発行されたものの復刻版ですが、(よし藤作品は没後、何回か復刻されているようです。)江戸末期の子どもたちの遊ぶ姿が生き生きと表情豊かに描かれています。絵の中に、子どもたちの話した言葉が書き込まれています。とても自然で可愛らしく見ていてほほえましく思います。こんな言葉なのです。

せうもん(しょうもん) つけろつけろ。となりへいけ。  
おししだおししだ、てけれつてん。こらこら、すてんすて  
ん、どんどん。たまや、たまや、たまや、ばんばん。よい  
よいよい。イヤア、あけろ、あけろ、あけろ。ヤアイ、や

れやれ。おゝいせいがいゝなア。ハチャイ、おれといせう  
 (いっしょ)にこいやい。ありや、じんちん。だれだとお  
 もふ、かとふきよまさ(加藤清正)だ。ありや、ありや、  
 ありや。おやまの大せう(大將)、おれひとり。おふわた  
 こい、まゝくはせう(飯食わしょう)。竹ざはとうじ(当  
 時のコマ回しの名人か)だ、みんなみる。きお(今日)は  
 二八日、おしりのよふじん(用心)、こおよふじん(ご用  
 心)。あんまめくらに、あたつたらごめんよ。どつこい、  
 ヤイ、きんこ、ひどくするな。たけ馬だ、わきよれわきよ  
 れ、くるまくるま。ゑんがやゑんが、きんぼおはゑんが。

図③は『新板子供歌尽』という明治十七年に発行され  
 た作品ですが、当時の子どもたちが歌っていた唄が絵入  
 りで紹介されています。コマの最初と最後に表紙の絵に  
 なっていますから、横に一つずつ切り離して折り曲げて  
 つなげると、小さな歌集ができるようになっていきます。  
 今でも歌い継がれている唄も見られますから、「わらべ  
 唄」の研究資料としても貴重な作品といえましょう。

▶図③ 『新板子供歌尽』



言葉を読み下してみるとこうなります……。

子ども歌上 人まねこまね 酒屋のねこが でんがくやく  
 とて 手おやアいた  
 ううさぎうさぎ なにヲみてはねる 十五夜お月さま  
 てはアねる ヒヨイヒヨイヒヨイ

たこたこあがれ あがッたらにてくおう さがッたらやい  
てくおう

おふさむこさむ 山から子ぞふがとんできた なんとてな  
いてきた さむとてないてきた

おでこころんでも はなふたず あめがふてもかさいら  
ず

やんまううし あかとんぼ たかやんまはっこ ひくやん  
まおりろ あつち急行くと ゑんまがしよる こच्चへく  
ると ゆるしてやるぞ

きようわ二十八日 おしりの用じんこふよおしん あした  
わおかめの だんこの日

あの子アどこの子 てうちんやのまます あがッてあすべ  
ちやわんのかけで あたまこッきりはッてやれ

おふわたこいこい まゝくわしよふ まんまがいやなら  
くわしやろな

あのあねさん いゝあねさん おしりがちいとまがッて  
さかい町のまん中で あかいものつんだした

桃くり三ねん かき八ねん ゆづは九年でなりかかる

ゆうやけこやけ あしたわ天きになアレ  
こうもりこうもりこいこいこい 柳のしたですうのませう

図④は『あね様両面合』という作品です。旦那さん・  
おかみさんのおまつ・ごしんぞさんのおつる・むすめの  
おはつ・女ちゆうのおたけの四人とねこ・かき・ようじ

▲図④ 『あね様両面合』





◀ 図⑤ 『行水猫のたわむれ』

(二) ユーモア性

さし・羽子板を前と後から描いてあります。切り取って貼り合わせて姉様ごっこを楽しんだものでしょう。  
左下の検閲印が文久二年（一八六二年）のもので、江戸末期の商家の家族のようすを偲ぶことのできる作品といえます。



▶ 図⑥ 『しん板ほうづきあそび』

よし藤作品の特質の二番目として挙げられるのはそのユーモア性です。動物や曲芸・なぞなぞなどを使って子どもたちを心の底から楽しませてくれています。

図⑤は『行水猫のたわむれ』という作品で、町のお風呂屋のありさまを「人」を「猫」に代えて描いている絵です。動きや言葉書きがとても生き生きとしていますし、入浴中の裸の姿の人々の顔がかわいらしい猫になっ

〈表1〉『しん板ほうづきあそび』

ほうづきのおぶう よくあかがでますよ おやありがとう もうよろしう おおあぶないねへ それだからおまちと	おもしろいねへ アハハハ よくおどるねへ おやおやそうですか あねさん ほんじよかへ おやおや	わたいおんぶしやう おまへハのろくきいねへ はやくおあるきナ おつかさんなにか かっておくれナ おにごつこなら	もんじやき わたしはひとりでやくよ わたしもかほう ほうにもうつておくれ	あぶないあぶない よつちよいよつちよい よつちよいよつちよい やアイかた入るかた入ろ おろすのだおろすのだ てをうててをうて よいよいよいよい	あつくわいてゐますよ おゆうハ どうぞごさいます おつかさんわたしも おぶうへはいらう おやにへたよ にへたらおくれな ごりごりごりごりごり おつけのみハ なんにしませうか ほうやみづやさんを よんでおくれ 水やさんはやく いれておくれ いまおまへところへ ゆくところだ
おつかさん ころんだよ ころんだよ おやごめんなさいまし おやひどいねへ はねますよ おつかさん	いふに ハどつこいどつこい やアとこせよんやなア ありやりやこれわいさ このなんでもせ ハごきとうごきとう へいおさかなが まいりました	ぼうもおんりして あそぶか おおにやとおおにや おにさんござれ ここまでござれ あまざけしんじやう	おやおあかさなかへ おいおいおくれ文久ニッ うまいハかりんとう	わたしハ ちよつとようたしに いつてきますよ	

ていますので、絵全体が自然ではほえましく感じられま  
す。

図⑥は『しん板ほうづきあそび』という作品です。赤  
いほおずきの実を人の代わりに描いている絵ですが、絵  
の中の言葉も楽しくユーモラスです。こんなふうなの  
で……。〈表1〉

図⑦の作品は『しん板変化かるわざづくし』という作  
品です。動物や人が組んでさまざまな軽業を演じていま  
すが、子どもたちの夢を描いた作品といえましょう。

図⑧は『東西角力のはんじもの』という作品です。何  
かおかしい絵がたくさん描かれています。これらの絵  
は当時の「おすもうさん」の名前を表しているのです。





▶ ⑦図『しん板変化かるわざつくし』

「くもせやま」（中央右）・「ともづな」（左下）・「ひでのやま」（中央の女と犬の絵）・「つるぎさん」（右上の木を釣る男の絵）などと読み取るそうですが、とてもユーモアあふれる作品といえましょう。

### (三) 技巧性

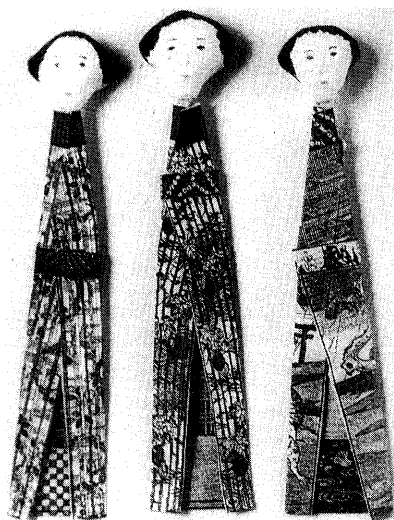
よし藤の作品の中に、ハサミで切り取って作り上げる



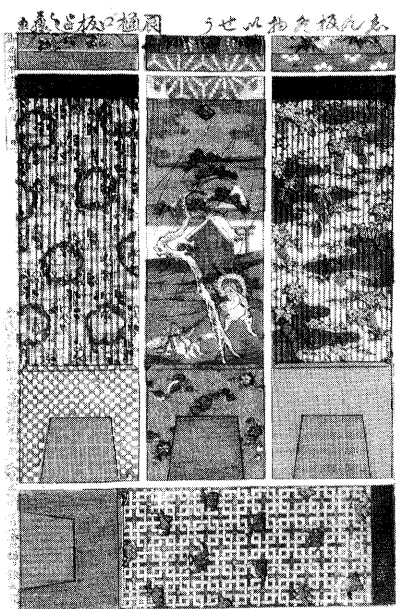
◀ ⑧『東西角力のはんじもの』

ものが多く見られます。  
図⑨は『しん板冬物いせう』という題がついています  
が、「あね様人形」の衣装集の絵です。切り取って人形の頭に着せて、お人形遊びをしたものでしょうが、女の子たちは楽しみながら「手技」を身につけていったこと  
でしょう。図⑩はその出来上がり予想図です。

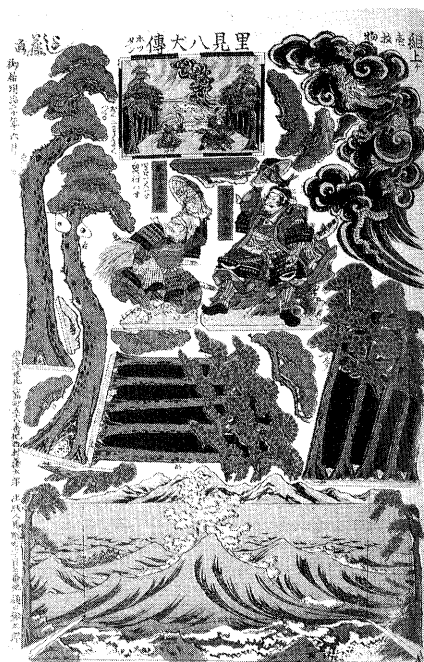
図⑪は『組上ヶ壺枚物・里見八犬伝ホッタン』という



▲図⑩ あね様人形



▲図⑨ 『しん板冬物いせう』



▲図⑪ 『組上ヶ亭枚物・里見八犬伝ホッタン』

作品です。こまごまとした絵が描かれていますが、これらの絵を丁寧に取り取りノリシロにノリを付け、立てて並べると舞台の場面ができるようになってくるものです。

よし藤はこんな歌舞伎の名場面や建物・店などの「組上絵」を二十以上も残しているのです。

(四) 実学主義

よし藤の作品の特徴の最後は、子どもたちに、生きていくために必要な「知識」や「知恵」を授けてくれるところにあると思います。

図12は『鳥づくし』ですが、このような生物や道具などをたくさん描いた作品がいくつかあるのです。今でいう「図鑑」でしょうが、当時の子どもたちはこのような

▲ 図12 『鳥づくし』



▶ 図13 『しん板婦人手わざ尽』

作品から「知識」を学習していったのではないのでしょうか。

図13は『しん板婦人手わざ尽』という作品です。一八五〇年ころの江戸の町の婦人たちの日常生活が四二点も描かれている図ですが、当時の町の少女たちは、こんな絵を見る中から知らず知らずのうちに「自分たちの将来像」や「必要な手技の種類」などをイメージ化していっ

たことでしょう。

図⑭は『世たい道具みようと合』という作品です。人間の顔を日常使われる生活道具に代えて、二つずつ組み合わせ、夫婦間の会話をさせている絵です。

子どもたちはこんな絵を見ているうちに「夫婦や男女の在り方」を学んでいたことでしょう。へ表2▽

◀ 図⑭ 『世たい道具みようと合』



▶ 図⑮ 軸『大宰府天満宮』

図⑮は学問の神様「菅原道真」が漁村の子どもたちが砂に字を書いている所を優しく見守っている絵です。「一字千金当」という文字が見られますが、学ぶことの大切さを当時の子どもたちに諭した絵でしょう。

三、よし藤の子ども浮世絵から何を学ぶか

これまで見てきたように、よし藤の子ども浮世絵にはいくつかの優れた点を指摘することができますが、これらをまとめると、よし藤がいちばん語りたかったこと、それは、『子どもたちよ、健全な市民になれ!』という

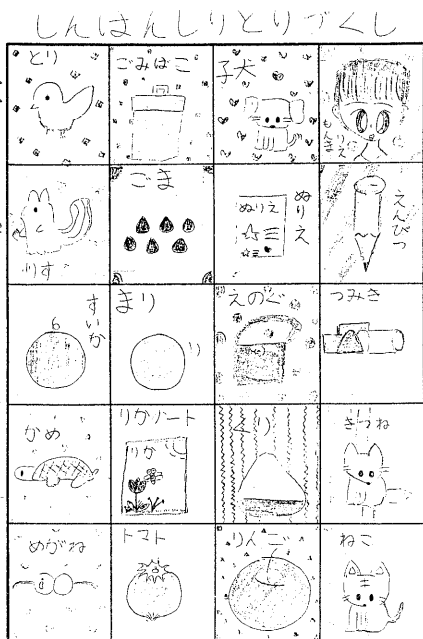
〈表2〉『世たい道具みようと合』

これから なにぶん たのみます	はなおは きれて かたあしだ 患べへきどりよ。	おれはいいから ほうが たんとなべな	いろもかもある すいたとし すいなきよに やほらしく	まいらぬにて この一とふで ごらん下さりまし	さつきから ままだできている ここであがるか おくゑするか
ふしぎな ごえんで ござります	ほんにマア はなおは わたしは すげませう	おとつさんに おさきへ あげよふねへ それからほうのだ	こ茶こいちやの なかじやもの	日ごろから おまへのしんじつ どれ見ませふ	エ、ままなら くいとふない ほんに いな川のよふだ
ゆくすへまでも かわいがつて くださんせ	こうして みせたい わたしの心	ほうや今 しら玉水お あけよふか	思いなおして おやぎとへ つれてふうふの みおしのふ	まくらならべて わしや ねるぞへ	これから ふたりで なかよくくらそう ハイなア
そらぼうや おとツちやんが かへつて おいでだよ	きよだいよりも ふかいわ ふうふのえん	さあでてゆきアがれ このおたふくめ	いろであいしも きのふさふ からい おつけのこふこふ	じやとゆうて おまへには おはぐろつぽとゆう 夫がある	しづかにしづかに あすこにみゆるわ たしかにおつて
おとツちやん ぼふのべべが できるよ	うちはどふしの この中じやもの そんなにすねる ものでない	まあまあまあ そのたんかわ わツちに あづけてくんない	おふぎに おせはに なりました	さむくツて ならねへ 手なべで一ぺへ やらかそふ	ぼふが せいじんして めでたいめでたい
そふかおツかさんに おれいよ いいな	どふでおまへに まかしたからだ どうでもかつてに しろぼうき	さあどおでもしろ ぶつならぶて ここにせうこがある	うちはどふして なんのえんりおが いるものかいなア	あいよ 今おかんが できるよ どおなるものか	もうおたんせうが まいますよ

ことであつたのだと思います。

今、わたしたちの回りの子どもたちの世界には、さまざまな悲しいできごと・事件が続ぎ、心ある大人たちを悲しませています。

子どもの数が少なくなり、子どもたちが必要以上の期待を負われ、競わされ、管理され、また、過度に甘やかされてのことでしよう。



一九九〇年10月13日 藤子・F 一 もんきりへ

こんな時、わたしたちは、あのよし藤が子どもたちに対して示した「心配り」を、子どもたちを優しく暖かく見詰め、包み込み、時には厳しく現実を直視させ、回りの人々とのつながりの大切さ、そして、市民としてきちんと暮らしていくことの意義や方法を教えてくれているものを、子育ての原点として再認識していくべきではないかと思うのです。

最後に、わたしの目の前の子どもたちが作ってくれた『しんはんづくし』たちをいくつか紹介してこの論を終えたいと思います。

(文京区立青柳小学校)


















# 〈文献〉

『よし藤・子ども浮世絵』 中村光夫編著 富士出版

図版①⑧⑫は著者所蔵

②⑦⑨⑪⑬⑮は『よし藤子ども浮世絵』より

# しんばんなんでもづくし

こわいもの	 おばけ	 ライオン	 かいじゅう	 男の子
かわいいもの	 女の子	 ねこ	 うさぎ	 うさぎ
おかし	 チョコレート	 ポテトスナック	 アイロップキャンディ	 キャンディ
ぶんぼうぐ	 えんぴつ	 ししゅう	 けしご	 のり
のびのび	 水	 おしるし	 ジュース	 コーラ

せんば  
まみ

# しんばん友だちづくし

 (まりのさん)	 (さくらさん)	 (ましろさん)	 (しずくさん)
 (木村さん)	 (ましのさん)	 (つまつさん)	 (もんまさん)
 すいけん	 わだくん	 (五木田さん)	 (はこ山さん)
 (くろたさん)	 (山下さん)	 (いいたさん)	 (大せきさん)
 (金子さん)	 (せんはさん)	 (さかたさん)	 (すがのさん)

せ  
ら  
や  
り  
ま  
い  
★

10月3日